

第2回全国邦楽合奏フェスティバル

～日本の旋律で楽しもう～

2014年2月1日(土) 11:00~12:30 16:10~17:40
2月2日(日) 10:00~11:30

日本女子大学他 非常勤講師 石上則子

小学校では、学習指導要領が完全実施されて4年が経過しようとしている。高等学校では、平成25年度より実施されたが、小学校では折り返し地点にさしかかっていると言える。そこで、音楽科の改善の基本方針

- 国際社会に生きる日本人としての自覚の育成が求められる中、我が国や郷土の伝統音楽に対する理解を基盤として、我が国の音楽文化に愛着をもつとともに他国の音楽文化を尊重する態度等を養う観点から、学校や学年の段階に応じ、我が国の伝統音楽の指導が一層充実して行われるようにする。

がどのように実施され、日本の伝統音楽がどう展開できるのか、邦楽関係者が集う本ワークショップで考えてみたいと思っている。

「日本の旋律」をテーマに即興的な表現を楽しみながら、箏を使った旋律づくりを中心に箏による音楽づくりを行いたい。

1 「わらべうた」を楽しもう

「わらべうた」は、日本の音楽の原初的な形と言えます。日本の音楽にふれるとき、とくに低学年では、「わらべうた」を抜きに考えることはできない。

まず、わらべうた遊びで、日本の五音音階の感覚を思い起こす。

☆手遊び歌で日本の旋律を楽しもう

① 「げんこつ山のたぬきさん おっぱいのんで ねんねして

だっこして おんぶして じゃんけん ポン」(「げんこつ山のたぬきさん」)

ア) 手遊び歌を覚えながら、先生とじゃんけんをする。

イ) 2人組～4人組で、遊ぶ。

ウ) 交互唱で

エ) カノンで

オ) オスティナート「じゃんけん ポン」「げんこつ」「たぬきさん」

② 「ちゃちゃつぼ ちゃつぼ ちゃつぼにやふたがない そこをとってふたにしよ」

- ア) 手遊び歌を覚える
- イ) 都節の音階や沖縄の音階で歌う
- ウ) 歌舞伎調、長唄調、新内流調、今様調、能楽調、(演歌調? 唱歌調?)
で歌う

エ) 伴奏を加える

③ 「なべなべそこぬけ そこをとって ふたにしよ」

- ア) 遊びを覚える
- イ) 箏で演奏する
- ウ) オスティナートを入れて演奏する
- エ) 合いの手を入れたり、他の飾りの音を加えたりする

2 「日本の旋律 (小泉文夫氏による4つの音階)」で、音楽をつくろう<1日目>

- ① 隣の音に進むようにする
- ② 核音で終止する
- ③ リズムや強弱・速度など、その旋律のふさわしいものを選ぶ
- ④ 日本の音楽文化の分野を選んで表現を楽しもう→歌舞伎調、長唄調、民謡風 (追分風・八木節風)
- ⑤ 4人の旋律を問いと答えでつないだり、反復させたりしてまとまりのある音楽にする。

民謡音階

律音階

都節音階

沖縄音階

3 楽調子と雲井調子で、音楽をつくろう<2日目>

楽調子

D	G	A	C	D	E	G	A	C	D	E	G	A
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

雲井調子

D	G	G#	C	D	D#	G	G#	C	D	D#	G	A
---	---	----	---	---	----	---	----	---	---	----	---	---

山口先生に即興的に、音を入れていただきます。はじめと終わりを明確にしましょう。